



成長

教会標語

日々新たにされる私たち

(Ⅱコリント5: 17)

編集 < 総務 >

発行人 西村 敬 憲

発行所 岡山市東区

西大寺中野 543-2

日本同盟基督教団

西大寺キリスト教会

電話(086) 943 - 7552

「私は世の光です」



牧師 赤江 弘之

イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」 (ヨハネ八・一二)

闇の中を歩む者

闇とは何か。地震によって停電したら真つ暗闇です。しかしここでは、神についての無知の闇のことです。神がわからなければ、人間は自分がどこからきてどこへ行くのかわからないのです。同じヨハネの一二章三五節に「もうしばらく、光はあなたがたの間にあります。闇があなたがたを襲うことがないように、あなたがたは光があるうちに歩きなさい。闇の中を歩く者は、自分がどこに行くのかわかりません」とあるからです。

私たち人間が人間として生きていく上に必要な霊的光のことで、墓のかなたまで

を照らし出す光のことです。どんな人でも、主イエス・キリストのもとに来るまでは、霊的に死んでいるのです。ヨハネの福音書は、一章で、イエスという方が「ことば」である永遠の神であり、創造主であり、闇に打ち勝つ光であったと書き始めています。

世の光とは何か

世の光は「いのちの根源からくる光」であり、「いのちを与える光」とも、霊的光のことを言いました。霊的光の具体的な太陽光線のこととお話しします。誰もが知っている光のありがたさに気が付かないと、目に見えない霊的な恵みについて見落としてしまうからです。

八章一三節に、パリサイ人がイエスを信じない理由を伝えています。「あなたは自分で自分のことを証し

しています。だから、あなたの証しは真実ではありません」と。これに対するイエスの答えは明快です。「あなたがたは、わたしがどこから来て、どこへ行くのかを知りません」(二四節)。この意味は、「あなたがたは、わたしが神から来たということを知らないのだから、わたしが超自然的な神であるということも知らないのだ」ということです。主イエスは、自然界を創り支配しておられるのだから、超自然の世界も、心の闇の世界も支配しておられることを知ってほしいのです。

太陽光は癒しの効果を表します。具体的に、有名な太陽光線療法があります。カーボンアーク灯治療器が我が家にもあります。また、太陽光線は紫外線、可視光線、赤外線二つがあります。人類は太陽の恵みとも言われる日光を享受して生きています。太陽光なくして生命は存在できません。

最近ソーラーパネルを利用して発電して、地球温暖化防止に貢献しています。それに何よりも、太陽は炭

酸同化作用によって、生物が炭酸ガスを吸収して酸素を大気中に吐き出します。この作用なくして、人間は地球上に存在できないのです。皆様方は、どれだけ太陽の存在に感謝しておられますか。どこかで、自然の恵みであつて、有難さを感じていないのはありませんか。太陽は、偶然に存在しているわけではありません。私たち人間はなぜ意味を考えるのでしょうか。すべてのことに意味はないという無神論や、不可知論という思想も意味を求め知的作業の証明です。すべてが偶然に存在するという哲学も、太陽の存在理由を説明していません。創造主であられる神様は、人間を愛してすべてのものを造られたというのが、聖書の与える存在の意味です。「人間は考える葦である」と言った科学者で哲学者パスカルは、神の存在を信じる方に賭けると言いました。

「わたしに従う者」とは

それはイエスを救い主と信じることです。従うことは、行いを求めることばで

※ 次ページへ

救いと転入会の証し



久野美代子

すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあつて私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとしたのです。

(エペソ一・四)

私が初めて聖書を手にしたのは、日曜学校に通った小学五年生の頃でした。その時、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という主の十字架の上での叫びのことが、私の胸に印象深く残りました。その後、引っ越しをして、高校一年生の時に加古川市の尾上聖愛教会に導かれ、毎週通うようになりました。

橋本巽先生の熱い福音のメッセージを通して、あの叫びは、私の罪の為に、父なる神様に見捨てられて下さったのだということがわかりました。翌年、橋本先生のお導きの中で、はつき

りとイエスキリストが私の救い主、私の神、そして三日月目に復活されたのだ！と信じ、洗礼を受けました。

一九六四年七月二六日です。神様の子供とされ、全く新しい人生を歩む者とされました。

その後、結婚し、二人の子どもが与えられ、教会生活が守られてきました。四〇歳の時、義理の両親のお世話が必要になったため、水戸市に同居の為転居し、水戸福音キリスト教会に転会し、十一年間教会生活を送りました。

その後、実家に戻り、母の介護とヘルパーの仕事をしつつ、播磨キリスト教会で二四年間教会生活を送りました。その間、母が病床で洗礼を受けた後、回復して車椅子で共に礼拝できたことはさいわいでした。

この度、主のお導きにより

、西大寺キリスト教会に転入会させていただくことになり、心から感謝していただきます。又、一六歳の時から六〇年間、赤江先生御夫妻の祈りと支えがあったことも、主の恵みと、感謝していただきます。

「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」(ガラテヤ二・二〇)このみことばの通り、内にいますキリストによつて生かされ、キリストを証しする者として西大寺の地にあつて、歩ませていただきました。

いと願わされています。加えて、奉仕について添えて記します。尾上聖愛教会では、教会学校の教師を一〇年間。その後、自宅にて分校を五年間、水戸市に転居するまで奉仕しました。

水戸福音キリスト教会では、教会役員を五年間させていただきました。

播磨キリスト教会では、十一年間教会学校、校長として仕えさせていただきました。

今回、西大寺の地に導かれました経緯は、一昨年、

脳の病気で入院しまして、年齢的にも、築五八年の家の処分を考え、姉弟と相談して売却することになりました。自分の住まいをいろいろ考えましたが、単身者には難しく、経済的にも困難な状態でした。赤江先生御夫妻に相談する機会があり、あるお宅をお借りする話もありましたが、牧師館のゲストルームはどうかというお声があり、この度入居させていただくことになりました。主にあるご親切にあずかり、住まいが与えられ、教会生活が続けられますことを心から感謝致しております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

(23・11・26 転入会)

※

はありません。ヨハネの福音書の一四章九節では、「ピリポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知らないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか」と言われました。同じ十一節に「わたしが父のうちにおいて、父がわたしのうちにおられると、わたしは言うのを信じなさい」とあります。つまり、主イエスに従うとは、聖書で言われているように、イエスを救い主と信じることです。それ以外に私たちの救いはありません。イエス様を一緒に信じて、闇に打ち勝つて天国に行く備えをして、世界の光の一つに加えて戴きましよう。信じる人は、「あなた方は世界の光です」と約束されています。

五〇年の歩みに感謝して

建部 玲子

幼い頃、叔母の嶋田玲子姉に誘われ、礼拝や教会学校に出席するようになりました。小学三年生の時、一九七三年四月二二日に鈴木一郎師より洗礼を授かりました。当時、家庭にはいろいろな問題があり、母の苦勞する姿を見ながら育ちました。赤江先生をはじめ、多くの教会の方々の祈りに支えられていました。

高校生になり教会学校で奉仕をするように言われ、補助教師を始めました。子供たちの前で司会やお話するのが苦手で、教師会でも訓練の場が多く、続けることは難しいと思っていました。共に奉仕する友人や教師の皆様の祈りと交わりの中・・・三〇年近く続けています。

青年になり自分の信仰について深く考えるようになりました。私は本当に信じているのだろうか。もし神様がおられなかったらこの祈りはただの独り言ではないか。自分の信仰に確信が持てなくなりました。赤江先生、嶋田玲子姉のところに行き「教会をやめます」と伝えると、涙をもって一緒に祈ってくださいました。叔母の勧めもあり、礼拝出席だけは続けました。主は凍り付いていた私の信仰を主はゆっくりと、そして確実に溶かしてくださいました。

それから結婚をし、二人の息子が与えられました。主人の両親と同居生活でした。子供たちを教会に連れていくことを両親は猛反対していましたが、主人の協力もあり子供たちと一緒に教会生活を送ることができました。十年が過ぎる頃、少しずつですが両親も理解し、時には礼拝に出席もするようになりました。驚くようなになりました。主人が海外で単身赴任をし、下の子がまだ小学三年生の時でした。教会總會において、執事の奉仕をさせていただくことになりました。不安と驚きしもなく、姑にどう説明しようかと悩みながら帰宅すると、なぜか姑が笑顔で出迎えてくれました。長男が事前に「お母さんは教会の選挙で選ばれて、執事の仕事をやるようになったんだよ」と姑に話をしてくれていました。「主の山には備えあり」です。五〇年を振り返ると平坦な道のりではありませんでした。涙を流し、「主よ。助けてください」と祈ることのほうが多い歩みでした。その度に主は私の手をしっかりと握り、支え、導いてくださいました。「御手の中で、すべては変わる讚美に」。感謝に。今では二人の息子も姑も洗礼を授かりクリスチャンとなりました。離れて生活することが多かったです。主人と朝食の前に一緒に聖書を読みお祈りの時間を続けて持っています。驚くばかりの恵みです。感謝

私たち結婚しました！！



です。これからも主と共に歩み続けたいと思います。

4月よりの、長野県の中野キリスト教会での奉仕のためにお祈りください。

平野 貴志 師 2024年3月23日(土)
星乃 師(旧姓 西村)

ティーンズバイブルキャンプの証し

北村 隆 太

僕は、ティーンズバイブルキャンプ春に参加してきました。ティーンズバイブルキャンプでは、中四国の中高生と集まれる機会でも、とても楽しみな気持ちで参加しました。今回のティーンズバイブルキャンプでは、「なんて贅沢な人生だ」をテーマに、様々な物を神様から受け取る事が出来ました。

何を受け取ったかと言うと、僕は神様の煮卵なんだということ。これを読んでいる人は、「ん？何を言っているんだ」と思う人もいるかもしれませんが、僕は神様から恵みだったり、神様は僕たちの罪のために十字架にかかってくださった事だったり、色々なものを受け取っていると思います。だから僕は、信仰が熱い時だけクリスマスチャン

をしているんじゃないかと、もうおでんの中の卵のように、僕は神様に染まっているんです。だから僕は神様の煮卵なんです。笑
メッセージの時間、眠くなったり、今日は頭に話が入ってこないなつてとき、誰しもあると思います。そんな時も神様からのメッセージは、僕たちの毛穴から恵みを受け取っているんだよという事を知りました。

スキットでは、イエスの復活(ヨハネの福音書二〇章)の劇をしました。劇ではマリア役をしました。今回は高校二年生と三年生で作られたグループだったので、本気で賞を狙いに行きました。今回の採点ポイントでは、なんて贅沢なんだ！を表現するとポイントが高く、何を入れると賞を取れるか、みんなで考えました。やっぱり、高校生はざる賢いの

で、煮卵を劇に入れると小泉先生に刺さるんじゃないかと考え、イエスたちの弟子などを、イエスの煮卵と名付けて劇をしました。そしてなんて贅沢なんだ！という部分では、そんなイエスの復活を近くで居れたことを喜び、なんて贅沢なんだ！という部分を表現しました。そしたらなんと作戦通り、小泉先生に刺さり、高校三年生最後のスキットで、賞を取ることが出来ました。ほんとに嬉しかったです。

この三日間を通して成長しました。また、三日間だけではなく、この六年間を通して、このティーンズバイブルキャンプで神様と共に成長してきました。コロナ期間、賛美で大声出せなかった時も、オンラインだった時も、神様は僕を離さないで近くでいて教会から離れないようにしてくれました。本当に感謝だと思っています。これからはスタツフとしてティーンズバイブルキャンプに参加しますが、自分もスタツフとして神様と共に成長し、中高生たち

の手助けが出来たらいいなと思います。ありがとうございます。



ティーンズバイブルキャンプ2024春

